

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス アクセスウィングIX	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.480	△RG 0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アクセスウィングIX

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
5 インチ

比較対照ボール：アクセスウィングVIII

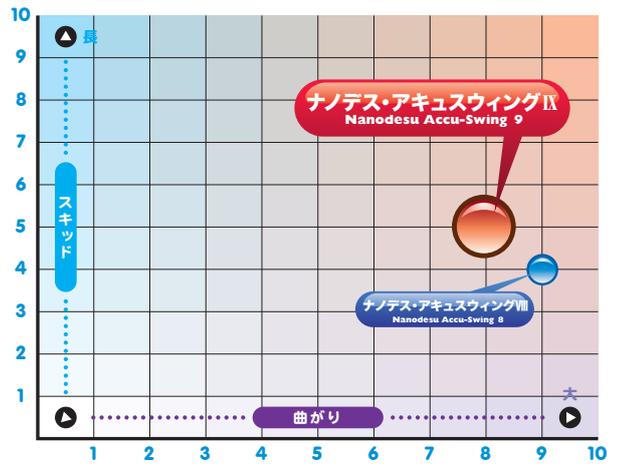
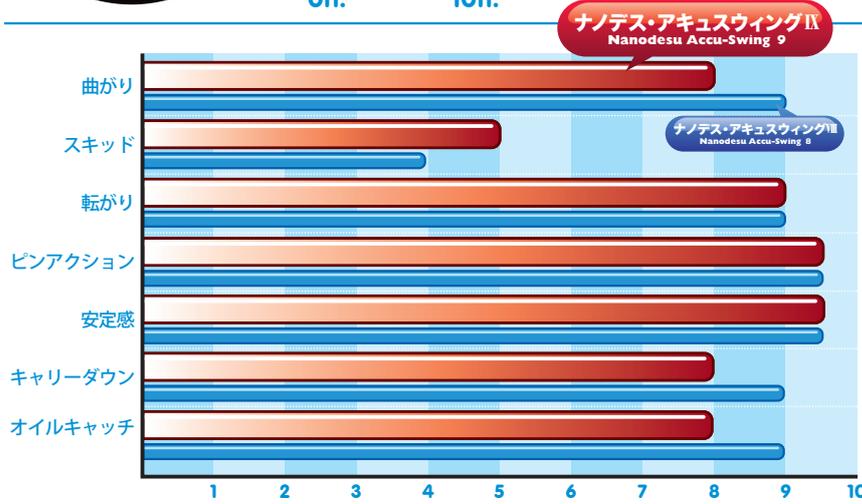
フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
5 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

ウレタン素材を使わないカバーストックを独特な製法で作りに上げてきたナノデスシリーズも、アクキュラインから始まりアクセスウィングへと変わり、また時代の流れと共に進化を遂げてきました。今や国産のボールがABSを支える中心の存在となったのも、日本の文化やスピリッツが欠かせなかったことは言うまでもありません。そのアクセスウィングシリーズも終盤に入り、ナノデスアクセスウィング9の発売です。

国産のボールは常に開発を進めており、特にカバーストックの進化は米国のケミカルディレクターをも唖らせる勢いであり、今回このアクセスウィング9に採用されているカバーストックも前作アクセスウィング8のバージョンアップ版で、ポリッシュされていても滑ることなく、しっかりと曲がってくるのが特徴です。特にポリッシュ加工を施していてもミッドエリアでの動き出しは非常に安定感があり、その後のフックからロール期の柔らかく切れ込むリアクションは、ポケットヒットを狙いやすい安定した軌道を描きます。

そこからピンアクションを助ける国産独自の衝撃吸収システムはすでにナノデスシリーズの代名詞でもあり、Magnet構造のコアとの相乗効果も伴い、「匠レベル」の仕上がりです。

対応コンディションはミディアムからミディアムヘビーが使いやすいでしょう。バックエンドの動きが足りない場合はやや曇らせることでパフォーマンスは出ますが、その場合は前作のアクセスウィング8と一緒に使われると良いでしょう。

ですので領域としては8の次に9というイメージで使用できると思います。最近ピンアクション勝負できるボールが購入の境目になることもあるでしょう。そのときにこのボールは欠かせません。

特記事項

今回のアクセスウィング9はやや走りを出した、スキッド・スナッフ系性能。柔らかく切れ込み、衝撃吸収システムの柔らかいピンアクションがストライクを生み出します。